



---

## 地域で支え合う介護従事の外国人

---

### すみだ日本語教育支援の会の取り組み

すみだ日本語教育支援の会 副会長 羽生隆司  
社会福祉法人賛育会 はなみずきホーム施設長 羽生隆司

2018年12月16日

千葉大学「未来型公正社会研究」第5回国際シンポジウム  
於：国際文化会館講堂

つながろう、ひとつに。ひろげよう、笑顔を。



# すみだ日本語教育支援の会発足の背景

- 深刻な人手不足(2005年初旬から顕著)
  - 募集広告を出しても問い合わせすらない
- ホームヘルパー2級養成課程修了のフィリピン人の存在
  - 2005年5月から4名採用
  - 利用者・家族・同僚からのクレーム等(無)
  - 人手不足を補う存在として期待
  - 課題は日本語の読み書き
  - 日本語の学習意欲(有)
- インドネシアとのEPAが衆院で承認(2008年4月17日)
  - 早稲田大学大学院宮崎教授との連携(報道・産官学)
  - てーねんどすこい倶楽部との連携(高齢者福祉課)
  - 2008年8月日本語教室とパソコン教室開始

つながろう、ひとつに。ひろげよう、笑顔を。

# すみだ日本語教育支援の会の取り組み

## • すみだ日本語教育支援の会の主な目的

- 外国人介護従事者が職場で必要な日本語力の向上を地域全体で支援すること、さらに地域の介護人材の確保に貢献し、地域の福祉事業を活性化させること

## • 事業継続のための取り組み(支援先の確保)

- 2008年8月～2009年3月 文化庁地域日本語教育実践プログラム
- 2009年4月～2010年3月 福祉医療機構 長寿子育て基金
- 2010年4月～2012年3月 東京都区市町村包括補助事業の先駆的事業
- 2013年4月～ 現在 墨田区外国人介護者等に対する日本語学習支援事業

つながろう、ひとつに。ひろげよう、笑顔を。

# すみだ日本語教育支援の会の取り組み

- 運営委員

- 日本語講師
- てーねんどすこい倶楽部
- 賛育会(事務局)

- 費用内訳

- 墨田区委託事業
- 受講料無料

- 日本語教室時間割

- 読解クラス
- 漢字クラス
- プロ養成クラス

- 生徒登録者数と参加状況

- 20名で平均参加者数10名程度
- 延べ登録者は120名程度

つながろう、ひとつに。ひろげよう、笑顔を。

# すみだ日本語教育支援の会の取り組み

- 介護福祉士国家試験に関する取り組み
  - 2009年1月 日本語教室受講生2名が初挑戦
  - 2009年2月 試験問題にふりがなをつける等外国人向けに配慮するよう厚生労働大臣に要請
  - 2011年 第23回介護福祉士国家試験からEPA向けに試験問題にふりがな、試験時間を1.5倍に等配慮
  - 2012年3月 日本語教室受講生から1名合格者誕生
  - 2012年5月 第24回試験の全問題使用表現の分析と見直しを実施し大臣請願の準備を行う
  - 2012年9月 定住外国人にもEPA候補者と同様の配慮を行うよう西村厚労副大臣に要請

つながろう、ひとつに。ひろげよう、笑顔を。

# すみだ日本語教育支援の会の取り組み

- 介護福祉士国家試験に関する取り組み
  - 2014年12月 受講生から介護支援専門員の合格者誕生
  - 2015年2月 定住外国人にもEPA候補者と同様の配慮を行うよう永岡厚労副大臣に再度要請
  - 2015年3月 受講生から介護福祉士試験に2名合格
  - 2015年7月 第28回介護福祉士国家試験から申請により全部の漢字にふりがな付きの試験問題を配布
  - 2017年9月 定住外国人にもEPA候補者と同様に試験時間を1.5倍にするよう加藤厚生労働大臣に要請

つながろう、ひとつに。ひろげよう、笑顔を。

# すみだの事例から学ぶ外国人介護職員の受け入れ ～誰もが働きやすい介護の現場をめざして～

●介護人材対策委員会

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 介護人材対策委員会は7月22日、外国人介護人材の活用のための日本語教育の課題について、「すみだ日本語教育支援の会」の活動事例をふまえながら、座談会形式で検討を行いました。

## 1 外国人介護職員の前に立つ壁 ～7年間の日本語教育実践から見てきたこと～

すみだ日本語教育支援の会で講師を務める中野玲子先生および宇津木晶先生に、7年間の教室運営から見た課題についてお話いただきました。

中野先生は、「日本語は“超”難しい。特に介護現場は難解な専門用語であふれています。介護の現場の人がそのことに気づくことが、壁を壊す第1歩」として、具体例を示しました。

### 一般的な日本語の壁

- ①漢字には音と意味がある → トイレの神?
- ②漢字が字に見えない → 日本人からみたタイ語のようなイメージ
- ③同じ言葉で意味が違う → あぐらをかく
- ④文末があいまい → 「それはちよっと…」

宇津木先生は、「介護の仕事に適性がない日本人よりも、言葉の問題はあっても適性のある外国人の方が、将来的により人材になる」とし、根気強い日本語教育支援の場が必要と訴えました。

### 外国人が介護の職場でぶつかる壁

- ①適性が生かされない → 日本語に不安があると単純作業に終始
- ②継続した日本語学習が困難 → 休みがとれないなど教室に参加できない
- ③同僚の理解が得られない → 日本語の難しさがわからず配慮が不足

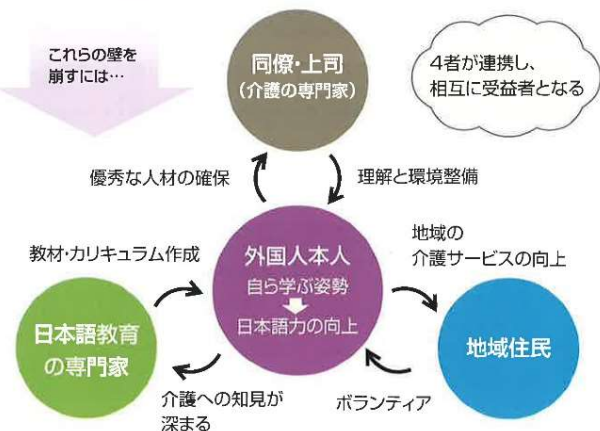
### すみだ日本語教育支援の会とは

介護現場で働く外国人に対する日本語支援をめざし、早稲田大学大学院日本語教育研究科宮崎里司教授を会長に、墨田区内で特養等を運営する社会福祉法人資生会、定年退職者を中心としたボランティア団体NPO法人ていねん・どうし俱楽部、墨田区から連携し、2008年に設立、介護の仕事に従事または関心のある外国人を対象に、毎週金曜に無料の日本語教室・パソコン教室を開催するほか、出張講座や介護の日本語教育設置のコンサルタンツ等を実施。また、介護福祉士国家試験について聞や都議会（議員活動）も実施。



すみだ日本語教育支援の会

<http://sumidanihongo.web.fc2.com>



## 2 [座談会] 日本の介護現場における外国人介護者を考える

### 足島氏 (フィリピン出身)

—会社の支援は  
日本語教室に参加するためのシフト調整など配慮してくれている。また、介護福祉士取得前から新入職員の指導も任せられるなど、常に挑戦をさせてもらっている。  
—今年4月に介護福祉士に合格して変化したことは  
以前は不安を感じていた利用者からも、「すごいね」と信頼につながった。  
—次の目標は  
漢字や認知症についてもっと勉強したい。ケアマネジャーにも挑戦したい。

### 丹沢氏

—職場で雇用している外国人は  
ロシア、中国、フィリピン出身の4人の外国人がいる。語学レベルや仕事の能力は人それぞれだが、それは日本人も一緒。まずは雇用してみよう。日本人にないポジティブさがある。  
—雇用するうえで注意点は  
たとえば誤配膳防止に名前にルビを振るなど、利用者に危険が生じないことが大切。

### 植竹氏

—日本人介護職員の負担は  
以前、60人規模の施設で8人の外国人を雇用していた。負担はあるが、日本人にとっても勉強になる。実際に受け入れてみると、適性があれば大丈夫だと感じている。  
—人材確保の状況は  
大変厳しい。外国人であろうと、働きたいという人をきちんと支援しなければ、介護現場は成り立たない。

### ●座談会登壇者

すみだ日本語教育支援の会	日本語講師	宇津木 晶 氏
和翔苑	施設長	中野 玲子 氏
東京清風園	施設長	丹沢 正伸 氏
ケアリッツ日本橋	訪問介護員	植竹 香苗 氏
日本語教育学会	副会長	足島 ヘルムニア 氏
司会：たちばなホーム	施設長	嶋田 和子 氏
		羽生 隆司 氏

### 嶋田氏

—日本語の壁に対し、私たちが取り組むべきことは  
EPAのほか、定住外国人に対するサポートが必要。介護の専門家、日本語教育の専門家、地域住民が三位一体となって、外国人介護職員を支える仕組みを7年間継続している「すみだモデル」を全国へ発信してほしい。

### —技能実習生の介護分野の受け入れについては

ハードルを下げるために日本語を軽視した議論が行われていることが問題。コミュニケーションが重要な介護現場で語学力が足りず、単純労働にとどまることが懸念される。2月4日に厚生労働省が示した「外国人介護人材受け入れの検討会」の中間まとめに対し、日本語教育学会として問題点を指摘し、要望書を提出している。



### 中野氏・宇津木氏

—今後取り組みたいことは  
日本語を勉強しても、仕事内容が変わらないことは多い。教室と職場が連携し、適切なステップアップが人材育成につながる。教室でも、7年間勉強した足島さんが、今度は教える立場になるなど、循環の仕組みをつくりたい。

### 羽生氏 (介護人材対策委員長)

「地域の介護は地域で解決しよう」と墨田区内施設が連携して、介護職員初任者研修講座開講を目指している。区内の施設に就職すれば、実質授業料が無料になるしくみ。日本語教育の経験を生かして、地域在住の外国人にも受講してもらいたい。EPAや介護技能実習生については単なる労働力の輸入ではなく、国際交流という視点で受け入れていきたい。東京は物価が高く、受け入れにあたっては衣・食・住も課題。地域振興につながる空き家活用なども検討したい。

# 4者が連携し、相互に受益者となる(利の循環)

## • 受講生

- 自ら学ぶ姿勢
- 日本語能力の向上
- キャリアパス
- 地位の向上
- 地域社会への参画
- 二カ国への貢献
- 仲間との連携

## • 日本語教育専門家

- 地域の力を実体験
- 日本語教育を通じた地域貢献
- 「介護の日本語」という新分野
- 専門日本語の教え方を開発
- 日本語教育が持つ可能性
- 発信の手法に関する学び

## • 介護現場・専門家

- 介護人材の確保と育成
- 地域とのつながり・ひろがり
- 社会貢献の具現化
- 介護のイメージアップ
- ソーシャル・アクション

## • 地域(どすこい倶楽部)

- 生きがい・やりがい
- 地域貢献の具現化
- 仲間との連携
- 介護の知識・スキル
- ソーシャル・アクション

つながろう、ひとつに。ひろげよう、笑顔を。



## 外国人ボランティア「ABOT KAMAY」の活動が始まりました

● 社会福祉法人賛育会 たちばなホーム 施設長 羽生 隆司

ABOT KAMAY(アボット・カマイ)とは、タガログ語で「助けあう、手を取りあう」という意味でフィリピンの言葉だそうです。このグループは、日本で介護の仕事をしているフィリピン人と墨田区の「すみだ日本語教育支援の会」で介護に関する日本語を学ぶ外国人介護職員が中心となって、自主的に集まったボランティアグループです。

### これからは支援する側として活躍したい

グループリーダー（会長）の疋島ヘルミニアさんは、介護の仕事しながら墨田区で日本語を学び、昨年の春に介護福祉士国家試験に合格しました。現在は、ボランティア講師として引き続き日本語教室に通い、国家試験で使われる用語をタガログ語や英語で後輩たちが理解しやすいように説明しています。支援される側から支援する側になりました。

そして自分たちの日本語学習を支えてくれる地域へ、何か恩返しができないかと以前から考えていたようです。そのことを知った日本人スタッフが、それなら規約を作って皆さんの得意な分野で活動できるように宣伝をしようということになり、本年4月22日に第1回総会を開催して、規約と会長ほか役員、総勢17名の会員を決定しました。

### この活動でフィリピンと日本の架け橋になりたい

このグループの目的は、

- 地域の介護サービスの現場や小・中学校でのボランティア活動を通して、自分たちの日本語能力と介護技術を磨くこと
- 地域の福祉社会の充実発展に貢献すること
- 日本とフィリピンの相互理解と友好を促進する架け橋となること
- 地域の子どもたちに向けた英語やタガログ語の学習支援
- 外国人向けの街歩き案内や外国人向けの防災マップづくりなどの活動
- 子どもたちの国際感覚を育成して、オリンピック等の国際イベントに対応できる街づくりとしています。

グループとして初めての活動は、さる6月20日墨田区のすみだリバーサイドホールにてNPO法人てーねん・どすこい倶楽部主催のセカンドステージセミナーにおいてフィリピンの伝統ダンスを披露し、60年代のダンスを会場の皆さんとともに踊り、大いに盛り上がりました。皆さまの施設にもお邪魔したいのでぜひ声を掛けてください。



これからも地域の方々と共に、日本とフィリピンをつないでいく活動に取り組んでいきます

つながろう、ひとつに。ひろげよう、笑顔。



## ABOT KAMAY GROUP

ABOT KAMAY GROUP(アボットカマイ)のメンバーは介護の仕事をしながら、『すみだ日本語教育支援の会』の日本語教室で介護福祉士を目指して勉強しているフィリピン人ヘルパーの仲間です。介護の現場では、利用者様と手を取り合い笑顔で頑張っています。

私たちは、日本にいるフィリピン人ヘルパー同士をつなぎ、介護についての勉強がもっとたくさんできるよう活動しています。そして、私たちを支えてくださった地域みなさんとも助け合い、手を取りあっていきたいと思っています。様々な形でボランティア活動をしていきますので、ぜひお声かけください！

\*アボット、カマイとは、フィリピンのタガログ語で「助け合う、手を取り合う」と云う意味です。

- 『1』 福祉施設やイベントでの介護ボランティア
- 『2』 福祉施設等での歌・踊りの披露
- 『3』 子ども向け英語教室、タガログ語教室

お問い合わせ先：社会福祉法人賛育会 法人事務局 担当：加藤  
TEL 03-3622-7614

